

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
教育学部	
学科・専攻科名	健康科学教育課程
コース名	スポーツ健康科学コース

教育学部の教育目的(具体的に記述・箇条書き)		健康科学教育課程の教育目的	スポーツ健康科学コースの教育目的				
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。		人と健康の関わりについて、運動面、生活面から科学的視点に立って理論的、実践的に学習し、心身ともに健康に学習し、心身ともに健康	運動と健康のかかわりについて理論的・実践的に学習し、心身ともに健康であることの意義を理解し、それを維持することの課題・諸問題を把握し、解決できる人材を育成する。				
健康科学教育課程スポーツ健康科学コースのカリキュラム		健康科学教育課程のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)	スポーツ健康科学コースのGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)				
授業科目名	授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。)	1. 修学計画能力: スポーツ健康科学コースにおいて学ぶか、身体運動と健康の関連についての概念を得る。また、スポーツ健康科学コース教育プログラムの学習、教育目標を掌握し、自ら修学プランを立案できる。	2. 専門基礎能力: 専門基礎科目としてとりあげる人の生涯にわたる身体の構造や機能の変化ならびにそれに対する運動の影響についての知識を習得できる。	3. 専門応用能力: これまで学んできた専門基礎科目の知識を統合・発展させ、体力トレーニング処方や健康づくりのための運動処方を実践するための理論と指導法が修得できる。	4. 課題解決総合能力: 課題研究を通して論理的な考察能力を養い、自分のアイデアや成果を文章にまとめることができる。	5. 進路計画能力: 運動と健康あるいは広く健康に関する業界の動向や人間性、就職環境などを把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向が決定できる。
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1◎ 2◎ 3◎	1◎ △ ○	2 3	1◎ △ ○	2 3◎
健康科学概論	健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する今日の話題を取り上げ、問題点や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築をする。	1. 健康と運動のかかわりについて説明できる。 2. 健康と食生活のかかわりについて説明できる。 3. 健康的な住生活について説明できる。 4. 健康と運動のかかわりについて考察できる。 5. 健康と食生活のかかわりについて考察できる。 6. 健康と住生活のかかわりについて考察できる。 7. 運動に関心を広げ、実践できる。 8. 食生活に関心を広げ、健康的な食生活を実践できる。 9. 住生活に関心を広げ、健康的な住生活を実践できる。 10. 健康について主体的に改善をはかることができる。	7△ 8△ 9△ 10△	1◎ 7◎ 10△			
人体構造概論Ⅰ	身体を構成している部分の構造と形態(解剖学)、そして部分の働き(生理学)について、特に身体運動に関わり深い骨格と筋について概説する。	1. 骨格系と筋系について説明できる。 2. 骨格系と筋系について説明できる。 3. 骨格系と筋系について説明できる。 4. 骨格系と筋系について説明できる。 5. 骨格系と筋系について説明できる。 6. 骨格系と筋系について説明できる。	1◎ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎ 6△	1△ 2△ 3△ 4△ 5△ 6◎	1◎ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎ 6◎		
人体構造概論Ⅱ	運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を神経・感覚器官・呼吸循環系・泌尿生殖器・内分泌系などについて概説する。	1. 各器官の構造と機能について理解し、説明することができる。 2. 運動による各器官の機能変化などについて推論することができる。 3. 各器官の構造と機能について関心をもち、自ら学ぶ姿勢が見られる。	1△ 2◎ 3△	1△ 2△ 3◎	1◎ 2◎ 3◎		
発達発達老化論	小児は、大人の縮図ではない。』というように互に異なる。これは、健康問題について考える場合、加齢の過程を正しく認識することが重要であることを示唆するものである。同時に、教育の領域においても然りである。本講義では、乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化について概説する。	1. 乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化についての概説を説明できる。 2. 授業で取り上げた項目について、運動指導などの関わりからの見方・考え方ができる。 3. 構造的・機能的発達発達経過の観点から人体に関心をもち、自ら学ぶ姿勢が見られる。	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3△	
病理生理学	疾病構造の変遷を概観し、生活習慣病の発症メカニズムや原因を説明する。その上で生活習慣病がどのような原因で発症するか生理・生化学および栄養学的な観点から概説する。	1. 各生活習慣病の原因について理解し、説明することができる。 2. 生活習慣の改善、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる。 3. 生活習慣と疾病の関連について関心をもち、自ら学ぶ姿勢が見られる。 4. 生活習慣と疾病の関連について概説し、その改善と効果について表現できる。	1△ 2◎ 3△ 4◎	1◎ 2◎ 3◎ 4◎	1△ 2◎ 3◎ 4◎	1△ 2◎ 3◎ 4◎	
文献読解演習	スポーツ健康科学に関する理論的・実践的研究手法を理解するために国内・国外の文献を講読する。	1. 国内・外の文献を講読して、スポーツ健康科学に関する理論的・実践的研究手法を理解する。 2. 国内・外の文献を講読して、スポーツ健康科学の今日的課題を明らかにし、課題解決のための研究方法を思考する。 3. スポーツ健康科学の今日的課題に関心をもち、課題解決に意欲を持つ。 4. 口頭および文章で適切な表現による説明ができる。	1◎ 2◎ 3◎ 4◎	1◎ 2◎ 3◎ 4◎			1◎ 2◎ 3◎ 4◎
運動生理学Ⅰ	神経および筋の生理的機能について概説するとともに、運動制御機構における神経-筋の役割および運動学習やトレーニングによる神経、筋機能の変化とその生理学的機序に理解を深める。	1. 神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経-筋の役割および運動学習やトレーニングによる神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。 2. 運動制御機構における神経-筋の役割および運動学習やトレーニングによる神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。 3. 運動制御機構における神経-筋の役割および運動学習やトレーニングによる神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。 4. 運動制御機構における神経-筋の役割および運動学習やトレーニングによる神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	
運動生理学Ⅱ	運動時の呼吸循環系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて講義する。	1. 運動時の呼吸循環系の反応および調節機構について説明できる。 2. 運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について説明できる。 3. 運動の種類による呼吸循環系の反応および調節機構の違いを説明できる。 4. 運動トレーニングの種類による呼吸循環系の適応の違いを説明できる。 5. 運動時の呼吸循環系の反応および調節機構について関心をもち、自ら学ぶ姿勢が見られる。 6. 運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について関心をもち、自ら学ぶ姿勢が見られる。	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	
運動生理学実習	安静時や運動時の呼吸循環機能の測定に関する実習を行う。	1. 運動に関わる生理的機能の測定方法ならびに、安静時や運動時の呼吸循環系の反応について実習を通して理解を深める。 2. 実習した測定法を卒業研究に活用できるようにするための授業の目標とする。	1◎ 2△	1◎ 2△			1◎ 2◎
運動生化学	運動によって生じる生体内の化学的変化とその機序について、とくに運動と関わりのあるエネルギー供給機構、酸素運搬機能、酸塩基調節能などを中心に概説する。	1. 身体運動時の生化学的変化を説明できる。 2. 運動時の骨格筋、血液、尿などの生化学的変化などについて推論することができる。 3. 運動時の生化学変化について関心をもち、自ら学ぶ姿勢が見られる。	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	
運動生化学実習	身体運動によって生じる生体内の化学的変化を測定する。その測定法は、測定結果を分析する。測定結果を分析する。測定結果を分析する。	1. 各測定法の原理について説明ができる。 2. 測定結果について、妥当な解釈ができる。 3. 研究方法の一つの手法として、関心をもち、自ら学ぶ姿勢が見られる。 4. 実験実習にふさわしい態度を持つことができる。 5. 測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実に行える。	1△ 2◎ 3△ 4△ 5△	1△ 2◎ 3△ 4△ 5△			1△ 2◎ 3△ 4△ 5◎

環境生体応応学	暑熱、高圧(潜水)などの環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理学的メカニズムなどについて講義する。	1. 環境に対して、生体が起こる反応、適応とその生理学的メカニズムについて説明できる。 2. 各環境下において、生体の適応を促す方法、および注意すべき事項について説明できる。 3. 環境に対する生体適応などについて感心を持つ。	10 20 30	10 20 30	10 20 30	10 20 30		
運動栄養学	この授業では、基礎的な栄養学を土台に、まず、身体構成と栄養素との関係を学習し、次に、スタミナと栄養(エネルギー代謝を含む)との関係、ウェイトコントロールと栄養との関係、疲労回復と栄養との関係等について学び、運動と栄養の関係を考える。	1. 栄養と運動の関係を理解し、より具体的に説明できる。(スタミナと栄養の関係、疲労回復と栄養関係など)	10	10	10	10		
バイオメカニクス	身体運動は骨格筋の収縮を伴い、その力学的な運動に働きかけて進行している。したがって、はじめに骨と関節及び筋肉についてのアトラインを述べ、それを土台に柔軟性、筋力トレーニングについて概説する。ついで、身体各部位の筋の構造や作用について理解し、身体運動との観点から筋の働きを考察する。さらに、身体運動を力学的側面から分析するための力学的基礎と応用について解説する。	1. 構造や機能を説明できる 2. 関連筋骨の機能を説明づけられる 3. 力学的分析にもとづき、動きの価値を評価できる 4. よりよいヒトの動きの分析と考察に資することができる。	10 20 30 40	10 20 30 40	10 20 30 40	10 20 30 40		
バイオメカニクス実習	この授業では、映像・フォースプレート・自転車用エネルギー・トルドメーターを用いた身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して学習する。	1. 各機器の原理を説明し使用することができる。生体内でのエネルギー変換と自転車で行った動作との関係が説明できる。 2. 測定の結果について説明できる。 3. 研究の一の手法として、関心を持つことができる。 4. 測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。			10 20 30 40		10 20 30 40	10 20 30 40
健康運動処方論	健康の維持増進のための運動処方の基本的方法、流れ(プロセス)について概説した上で、それぞれのプロセス、すなわち医学検査、運動負荷検査、体力測定などの考え方と進め方、それらの結果を基にした具体的な運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)の考え方と対象者に応じた具体的な運動プログラムの考え方などについて解説する。	1. 健康の維持増進のための運動処方の基本的考え方、流れ(プロセス)について説明できる。運動処方のための医学検査、運動負荷検査、体力測定に関して説明できる。健康の維持増進のための具体的な運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)作成のためのポイントを説明できる。 2. 医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした、具体的な運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)が適切かどうか判断できる。 3. 健康の維持増進のための運動処方に関心を持つ。	10 20 30			10 20 30		
健康運動処方実習	医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした、個人に合った運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)の具体的な方について概説し、演習や実習を通して、実際に運動プログラムを作成する。	1. 医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした、個人に合った運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)の具体的な方について説明できる。 2. いろいろな対象者に合った運動処方を、医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にして具体的に実行することができる。 3. いろいろな対象者に合った運動処方を実際に行うことに、関心を持つ。 4. 運動処方を実際に行うための計算等が出来る。	10 20 30 40			10 20 30 40		
スポーツ障害(救急法を含む。)	スポーツ障害、スポーツ障害・外傷の発生状況とその特徴、スポーツ種目別の特徴を説明する。骨・関節の急性外傷と慢性障害について明らかにするとともに、フォーラムにおける予防・応急処置、治療について概説する。実習では、特に肩関節・膝関節の診察手技について指導する。	1. スポーツ障害・外傷についての一般的特徴、発生期のスポーツ障害、オーバーユース症候群、関節加速損傷について説明できる。整形外科的メカニズムの観点から説明できる。 2. スポーツ障害・外傷の予防・応急処置ができる。肩関節外傷を軽減できる。 3. スポーツ障害・外傷に関わる問題に関心を持つ。		10 20 30	10 20 30	10 20 30		
テーピング・マッサージ実習	アスレチックトレーナーの職務を理解し、必要な知識を学ぶことを目的とする	1. スポーツ外傷障害の発生機序、そしてそれを予防し、外傷より復帰させるテーピング・マッサージの理解、またその中でテーピングの技術、スポーツマッサージの技術を学ぶ		10	10	10		10
体カトレーニング論	運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器の適応変化およびトレーニングの原理・方法について学習する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても学習する。	1. トレーニングによる身体器の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解できる。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解できる。 2. トレーニングによる一部の器の適応を他の器と関連付けて思考することができる。 3. 新聞・雑誌などの記事から種々のトレーニング方法の情報を収集することに関心がある。	10 20 30		10 20 30	10 20 30		
体カトレーニング処方実習	トレーニングの指導法や体力測定及びそのデータ処理法に関する実習を行う。	1. 体力測定の意味と方法を理解する。トレーニングの指導法を理解する。得られたデータの整理方法について実習を通して理解する 2. 既成の体力測定法にとらわれずに新しい方法を思考する。 3. 体力測定結果のデータの活用方法について関心を持つ。		10 20 30	10 20 30	10 20 30	10 20 30	
スポーツ体育情報処理実習	情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを運用して情報活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した画像検索、情報検索、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの実習を行う。	1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。 2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 3. 収集した情報の中から、自分の判断で意欲のあるものを選び出すことができる。 4. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。 5. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもつことができる。 6. ネットワークを上手に行動できる。 7. グループ作業を協調して行うことができる。 8. マルチメディアを活用した文書を作成できる。 9. データの集計や分析を行うことができる。 10. 情報の発信を行うことができる。 11. 明快で論理的な説明を行うことができる。					10 20 30 40 50 60 70 80 90 100	
運動指導論(運動方法学を含む。)	一般人のみならず青少年や高齢者も含めた対象に、健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する基礎知識、指導の考え方、指導の具体的な方法などについて解説するとともに、適宜それに関する演習や実習を行う。	1. 健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する特徴、指導の基本的考え方、指導の具体的な方法について説明できる。 2. 一般人のみならず青少年や高齢者も含め、対象に応じた健康づくりのための各種運動内容、その方法を適切に選択できる。 3. 健康づくりのための各種運動指導に関心を持つ。 4. 健康づくりのための各種運動を、対象に応じて具体的に指導することができる(基礎的な部分について)。	10 20 30 40			10 20 30 40		
陸上運動	中学校体育科における陸上競技の走・強・投の種目を行い、実技能力と指導能力を高める。							
スイミング	水泳はプール実習を2年間にわたり履修すること(3日間×2)になっています。プールで泳げなければ、指導教員の助言を受けながら泳ぎ別別の活動計画の作成をはじめ、水泳に関する事前学習も行います。							
体操	授業は実技実習を中心に行うが、実習の過程で指導法のポイントを学び取る手法で行う。	(1) 生涯体育の基礎となる体力づくり、動きづくりの基礎を学習する。 (2) 器械運動の特性を理解し、技能の向上・修得に努め併せて指導法について学習する。			10 20			
ボールゲームI	ゲームをとおしてフットボール系球技の基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法について学習する。	1. フットボール系球技の技術・戦術構造と技術指導の系統性について理解し、それを練習または指導計画として構成することができる。 2. ゲーム分析やルール作りなどで創意工夫しながら取り組むことができる。 3. チームの中で役割を分担し合いながら、分業と協業の取り組みに主体的に参加する。			10 20 30			
ボールゲームII	本授業では、バレーボールの個人的技能、集団的スキル及びゲームの戦術について概説する。また、それらの指導法についても解説する。	1. バレーボールの基本となる個人的技能及び集団的スキルを習得する。 2. バレーボールの基本となる個人的技能及び集団的スキルを習得するための指導法を学習する。 3. ゲームを通して、ゲームの戦術を理解する。			10 20 30			

エアロビクス	エアロビクス・ダンスは、ダンスの要素を取り入れ健康・体力づくりを目的とした有酸素運動である。健康・体力づくりを目標にしたプログラムは構成され芸術的な踊りとは異なる特徴をもつ運動である。プログラムは初級レベルでウォーム・アップ(準備運動)、ステップ・メインダンス(有酸素運動)、クールダウン(整理運動)を含む40分前後で構成される。音楽に合わせて全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。	1. エアロビクスダンスの特性について理解することができる。 2. エアロビクスダンスの効果を実感できる。 3. 動きの楽しさを共感できる。 4. 積極的にグループワークに参加できる。 基礎プログラムを修得し、グループ発表ができる。	1◎ 2◎ 3◎ 4◎ 5△	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎
観スポーツ	生涯スポーツとして手軽にできるスポーツ種目について、そのスポーツの概要(おいたちと親近、競技の仕方)、方法(施設・用具・服装、競技の進め方、基本ルール、審判の仕方)を理解するとともに、基本技術と練習方法などを修得する。	各種スポーツの基本技術、練習方法および審判法を説明できる。	1◎	1◎	1△
ダンス	そもそも人間は、演技的存在であり、それゆえ本授業では、人間のしぐさや儀礼的な身体所作、行動とリズムを通して表出される豊かな身体表現の可能性を模索する。具体的には、 1. モダンダンスの理念、 2. ダンスの創作、 3. その指導法等を通して、非言語的コミュニケーションとしての多様な身体表現の可能性を学習する。表現運動の楽しさや表現運動を通して得られる運動文化の新たな側面を発見する。以上のことを学習するために、各種舞臺では、授業作品発表会場を設け、授業作品を公開し、観客的な達成度を作品を通して評価する。	モダンダンスの理念を歴史的に理解することができる。 2. 表現運動の基礎的運動、アクションフレーズの意味、専門用語を理解することができる。 3. 基本動作を確認し、応用することができる。 4. 表現したい内容を適切な身体表現としてアクションフレーズを応用し、組み合わせ、全体を構成することができる。 5. 自主制作のダンス作品を通して、自己を見つめなおし、日常生活とダンスの関係について一定の関心を見出すことができる。 6. グループのリーダーとなり、率先して、作品づくりを進めることができる。 7. 自主学習により、授業内容を反復、応用し、次回授業時まで高めておくことができる。 8. 心を込めた作品づくりができる。 9. テーマについて真剣に考えることができる。 10. 出来上がった作品を他人に見せることができる。 11. 基本のステップ、ターン、ジャンプが正確にできる。 12. アマチュアレベルの連続動作を	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎ 6△ 7△ 8◎ 9△ 10◎ 11◎ 12◎ 13◎	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎ 6△ 7△ 8◎ 9△ 10◎ 11◎ 12◎ 13◎	
武道	柔道の基礎的な技術を習得する。特に固技を重点的に行う。	1. 柔道の基本技術の名称、動作を正確に理解する。 2. 柔道の基本技術を正確に習得し、乱取りに応用する。	1△ 2△		
社会体育実習	公的施設や民間運動施設において、運動の指導方法を実習する。	1. 運動を通して健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導に必要な専門知識を理解する。 2. 対象者にふさわしい運動内容と指導方法を思考・判断する。 3. 公的施設や民間運動施設において運動の指導やプログラムづくりに関心がある。 4. 実習先においては良好な人間関係を持つ。 5. 対象者にふさわしい指導技術がある。	1△ 2△ 3◎ 4△ 5△	1◎ 2◎ 3◎ 4△ 5◎	1◎ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎
スポーツ理論	1. 現代社会における文化現象としての体育・スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲學的方法を用いて考察する。 2. 政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育・スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から考察されるベースボール・テニス・バスケ、その論点を整理する。 3. 具体的に複数の論文の中身を紹介しつつ、粗大、概観をとりまわく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。 4. 講義時間内に体育を哲學するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。	1. 近代体育・スポーツの特性とその要請について説明することができる。 2. 遊戯論(プレイ論)から、近代体育・スポーツの根拠に隠れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。 3. 身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育・スポーツが有する有効性について説明することができる。 4. スポーツ現象を多元的観点から捉え、分析することができる。 5. スポーツ思想について考察を指摘し、説明することができる。 6. アマチュアリズム、アスレティズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係論理的に理解し、例示することができる。 7. 実社会におけるスポーツ現象や、自分自身の体験を、授業で履修した内容に引きつけて考えることができる。	1◎ 2◎ 3◎ 4◎ 5△ 6△ 7◎	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5△ 6△ 7◎	
衛生学公衆衛生学	人間の健康に影響を及ぼす各種要因(食・環境・社会等)と疾病との関連や各種疾病に対する予防、対策並びに健康の現状及びその指標について考察する。	1. 衛生学公衆衛生学の基礎知識の理解 2. 体育心理学の知識を応用しての問題解決力 3. 真摯に授業に取り組む態度	1◎	1◎	
スポーツ史	1. 本授業では、体育・スポーツの成立過程を、主として近代化の観点から概観し、その歴史的変遷についてを学習する(1. 体育・スポーツの概念、2. 分析視角となる概念装置について)。 2. 2. 体育・スポーツの定義、3. 分析視角となる概念装置について)。 3. 2. 体育・スポーツの定義、3. 分析視角となる概念装置について)。 4. 日本における体育・スポーツの成立過程についてその特徴を捉え、論じることができる。 5. スポーツ特有の文化伝播について、文化帝國主義や文化ヘゲモニーの観点から、今後のスポーツの発展、進歩について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。	1. 近代スポーツの伝播過程を歴史的に辿ることができる。 2. 日本における体育・スポーツの展開を概念史に即して説明することができる。 3. 近代体育・スポーツ現象について、その文化的特性と歴史的脈絡を関連させて捉えることができる。 4. 日本における体育・スポーツの成立過程についてその特徴を捉え、論じることができる。 5. スポーツ特有の文化伝播について、文化帝國主義や文化ヘゲモニーの観点から、今後のスポーツの発展、進歩について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。	1△ 2△		
スポーツ心理学	1. 本講では、体育心理学の沿革および基礎知識について説明し、運動・体育指導に役立つトピックを紹介する。 また、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなど、運動・体育指導の現場で有用な技法を実践する。	1. 体育心理学の基礎知識の理解 2. 体育心理学の知識を応用しての問題解決力 3. 真摯に授業に取り組む態度	1◎ 2◎ 3△	2◎	2◎
スポーツ社会学	1. この授業では、現代社会における体育やスポーツを一つの社会現象として捉え、ほかの制度、たとえば経済や政治、教育や家族などの制度との関連性について考察する。2. また、社会構造の中で体育やスポーツがどのような位置を占め、どのような機能を果たすのかについても概説する。	1. 社会現象としての体育やスポーツの状況、背景について説明できる。 2. 社会現象としての体育やスポーツ問題の相互関係やその解決策について、自分の意見を述べることができる。 3. スポーツに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 4. 日常生活の中でスポーツ問題について主体的に考えることができる。	4◎	1◎ 2◎ 3◎ 4◎	1◎ 2◎ 3◎ 4◎
スポーツ経営学					
スポーツ・健康・メディア論	「情報化社会」と呼ばれる現在、私たちの生活の中におけるスポーツや健康問題もメディアの影響を大きく受けている。それはマスコミの面々やインターネットの面々があるが、単に「功罪半ばする」という見方では不足しない大きな問題を抱えている。問題は今後ますます顕著を呈するであろう。メディア時代における「スポーツ・健康」問題(論)をどのような視点からみていくかにあらず、本講では今後重要となる「メディア」の中の「スポーツ・健康」問題を主たる内容とするが、それは同時に「メディア」問題を社会的文脈でクリティカルに読み解き主体的に問いかけていく能力の修得。「メディアリテラシー」の観点からできるだけ具体的なスポーツ・健康問題を取り上げ考えていくこともある。	1. メディアの仕組み、メディアリテラシーとは何かを理解する。 2. スポーツ・健康問題について自分の考えを考察し、今後のスポーツの発展、進歩について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。 3. 問題点を一定の表現形式で発表できる。	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎	1△ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎
スポーツ法學論	スポーツ関係法規は、内容的には、大まかにスポーツの振興、人権(保障)問題、及び事故責任と補償問題にかかわるものなものである。このようにスポーツ関係法規については、できるだけ事例に即して15回にわたって、その意義や役割・機能及び構造等について述べる。				

<p><b>カウンセリング論</b></p>	<p>「カウンセリング」という言葉は、日常生活の中で、さまざまな分野で使われています。学校現場に限らず企業のメンタルヘルス領域においてもますます重要な役割を担うようになってきました。しかし、誤解も多く、その実態については十分に理解されていません。そこで、講義では、カウンセリングの基本的な枠組みについて講義します。</p>	<p>1. カウンセリングの基本的な概念や理論・技法について説明できる。</p>	<p>1△</p>	<p>1◎</p>			
<p><b>メンタルヘルス概論</b></p>	<p>人間が健康生活を維持する上で心理学的側面から考慮すべき点について、人間の心身の機能的背景やそのメカニズムの観点から理解する。その際、生理心理学的手法による研究のデータに基づいた考察は中心となる。</p>	<p>1. 自己の深い理解の上から、健康心理学に関する知識を吸収する。 2. 知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。 3. 日常生活に密接に関連した内容が多く含まれ、興味・関心の大きい学問として意欲的に取り組む姿勢を身につける。 4. 展開される授業に単に受動的に参加するのではなく、積極的な態度で臨むことができる。 5. 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。 6. 科学としての「心理学」として位置づける。</p>		<p>1◎ 2◎ 3◎ 4◎ 5◎ 6◎</p>	<p>3○</p>	<p>5◎</p>	
<p><b>卒業研究</b></p>	<p>卒業論文の作成に向けて、各自の指定したテーマに応じて、実験の方法・論文の書き方について指導を行う。</p>	<p>1. 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 2. 各自の研究テーマについて、実験結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べる事ができる。 3. 様々な問題について、主体的に考えることができる。</p>	<p>1◎ 2◎ 3◎</p>		<p>1◎ 2◎ 3◎</p>	<p>1◎ 2◎ 3◎</p>	
<p>G P 項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き） 総合的 G P 到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）</p>							